

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 保 第 68 号 乙 保	氏 名	Batkishig Munkhjargal
審査委員	主 査 富永 辰也 副 査 片岡 佳子 副 査 遠藤 逸朗		

題 目

Aberrant methylation of dipeptidyl peptidase-like 6 as a potential prognostic biomarker for lung adenocarcinoma
 (肺腺癌においてdipeptidyl peptidase-like 6 (DPP-6)遺伝子のDNAメチル化は予後の指標となる)

著 者

Batkishig Munkhjargal , Kazuya Kondo, Shiho Soejima, Bilguun Tegshee ,
 Chikako Takai, Naoya Kawakita, Hiroaki Toba, Hiromitsu Takizawa
 Oncology Letters, Volume 25, Issue 5, 2023.05
 2023年5月オンライン掲載

要 旨

以前の研究で肺腺癌と正常肺の CpG island の異常メチル化を網羅的にスクリーニングした。DPP-6 は最も DNA メチル化率の高い遺伝子であった。DPP-6 は、神経の A type カリウム・チャンネルを調整する蛋白で、神経シナプスの可塑性を促進する。DPP-6 の DNA メチル化率は、正常肺と比較して肺腺癌で有意に高い。mRNA の発現は、肺腺癌と比較して正常肺で有意に高い。DNA メチル化と mRNA の発現は逆相関の関連を示した。早期の症例では、DPP-6 の DNA メチル化率は低く、lepidic の組織型の腺癌では、有意に mRNA の発現が高かった。DPP-6 の mRNA の発現が高い肺腺癌で、有意に予後が良好であった。肺腺癌における DPP-6 のメチル化は、mRNA の発現と逆相関の関係があり、mRNA の発現の低下は、腺癌の予後不良と関連する。DPP-6 が癌抑制遺伝子として働く可能性がある。以上の内容は、今後の医学の発展を考える上で、その社会的意義が大きく博士の学位授与に値すると判定した。